

みやぎ社保協 FAXNEWS

2023年9月15日 FRI No.970

「人権としての社会保障制度」 の運動推進を！

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-5-13
宮城県社会保障推進協議会

Tel 022-223-0566 / Fax 022-223-0977

e-mail miyagisyahokyo@bz04.plala.or.jp

保育・介護等関係5団体連名 対県要請 ＝職員は位置基準、感染症対策、物価高騰＝ 保育所に寄せられた保護者からの意見

“果物は高いから家では買えない”



(県に要望書を手渡す団体代表(右))

9/5(火)保育センター、福祉保育労など関係5団体で宮城県に対する福祉に関わる要望書を提出し懇談を行いました。団体からは保育園長や保育士、栄養士など8名が参加、県側からは担当課長他3名が対応しました。

コロナ禍が長くつづくなかで、保育や介護、障害福祉などの福祉職員は、いのちを守り社会を支える役割を果たしつつありますが、全産業平均の4分の3、月額25万ほどにとどまっている賃金水準の引き上げを求める声が高まっています。

参加者からは現場実態改善を求める声が続きました。以下、発言を紹介します。

<栄養士から物価高騰に関する発言>

- 物価が高くなったことでこれまで通りに献立に入れられなくなったものもある。
- 物価高騰により、より安い食材を探して買い物に行く等の業務量が増えたので、献立の工夫をしたり、子どもたちと食事指導やクッキング活動をしたりする、本来の栄養士業務に支障がでている。もっと、本来の子どもの成長を支える仕事をしていきたい。
- 食事の聞き取り調査をする際、果物は高いから家では買えないという意見を聞くことが多くなった。また、魚の摂取の機会が減っていることも感じており、保育園給食の大事さを痛感している。身体を作る大事な時期に、きちんと栄養を満たした美味しい料理を食べることを保証したいので、予算の増額をお願いしたい。また、保育園でいろいろな食材や料理に触れることは、大人になった時に健康で生活できることにもつながると思います。栄養面だけでなく、子育て支援や市民・県民の健康づくりという観点からも保育園給食の大事さを感じています。
- 給食がないために、学校の夏休み明けに子どもが痩せていたという報道もみるように、みえない貧困が広がっており、保育園給食の重要性が増していると感じています。保育料の無償化と共に、給食費も無償化が望ましいのではないかと思います。
- 保育園給食は栄養量だけでなく、食糧構成という、どんな食材をどの位、食べさせたらいいのかということも決まっているので、予算が少ないと必要な給与量を満たすことができないし、だからといってこの食材が高いから食べさせない。量を減らすということもできない。子どもたちが健やかに成長できる栄養たっぷりの給食を提供できるよう、子どもたちへの予算を上げていただきたい。